

中山間地における孤立集落の事前復興に関する災害復興学的研究

[科学研究費補助金(基盤研究(B)) 22310106]

2011年1月8日

石田和之
徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

調査研究の目的

現在、中山間地では、人口の過半数を65歳以上の高齢者が占める「限界集落」が急増し、維持困難な状態と化している。とりわけ、来る東南海地震は、生活道路・通信手段を寸断し、限界集落の多くが「孤立集落」となると予想されている。本研究は、伝統的な村落共同体が自らを守るために「伝承してきた」民俗的な仕掛けを発掘し、社会学、民俗学、社会心理学、社会福祉学、財政学等、広く社会科学諸分野の研究者が領域横断的に、これを再利用する方法を開発する。具体的には、中越地震の災害復興経験を共通の出発点として、「災害に強いコミュニティ」に関する社会科学的モデルを構築し、中山間地の「事前復興」に対する実践的動きかけに結びつけようとするのが本研究の目的である。

(科研費申請書より)

災害に強いコミュニティ=「事前復興」

実践的動きかけ

調査地域の概要

世帯数: 5,274
世帯面積: 122.55
平方キロ



徳島県における防災活動の現状と課題

	日本防災士会 加入者数	日本防災士会 徳島県支部 加入者数	自主防災組織 総数	特定局長 防災士研修 受講済者数
徳島県	38	47	776	151
徳島市	6	11	1000	
鳴門市	0	0	670	
佐田町	0	0	318	
石井町	2	1	387	
神山町	1	1	234	60
北条町	1	21	364	
北島町	0	2	374	
野田町	0	0	693	
佐野町	2	2	445	
上板町	2	2	647	
吉野川市	3	4	1000	
阿波市	2	2	483	
美馬市	1	2	339	
三好市	5	13	652	54
つるぎ町	0	0	768	
東みよし町	2	3	518	
北条町	3	3	647	
阿南町	5	6	412	
勝浦町	0	0	1000	
上板町	0	10	663	37
那賀町	1	1	692	
佐田町	0	0	637	
美波町	0	0	747	
阿波市	1	1	457	

- ①比較的生徒同士で顔が見えていると思われる中山間地など過疎地域においても組織率が低い。
- ②外見上の組織率が高くても、実際には組織として機能していない。(自治会の会費を会長の判断で自動的に自主防災組織に加入させてしまい、加入者本人に自主防災組織に加入しているという意識がない。)
- ③自治会を母体にする場合が多いため、自治会に加入していない住民をうまく捕捉できていない。
- ④(会員の高齢化などの理由により)そもそも自治会の活動が停滞しており、自主防災組織としての機能を果たすことが困難になっている。
- ⑤自主防災組織の活動において中心的な役割を果たす人に防災の知識が不十分である。
- ⑥単に形式上、自主防災組織を設立しただけ。
- ⑦遠慮

(注)日本防災士会加入者数、日本防災士会徳島県支部加入者数、特定郵便局長防災士研修受講済者数は平成22年4月1日現在の数値。自主防災組織総数は平成21年4月1日現在の数値。



神山町

- ▶ NPO法人グリーンバレーによる「創造的過疎」への取り組み
- ①活動全般
- ▶ 当初の目的: 国際交流→現在の目的: まちづくり(国際交流は手段に)
- ▶ 町からの指定管理者の指定を受ける→管理委託料収入の確保+活動拠点の確保
- ▶ その他、行政(国、地方自治体)の事業の採択→投資的経費の確保
- ▶ 地域住民への利益の還元が必要
- ②アーティスト・イン・レジデンス
- ▶ 毎年3名の作家を招聘(海外2名、国内1名)
- ▶ 町からの補助金(約50%) + プログラムへの応募料(約50%) + 町の遊休施設利用により運営
- ▶ 作家が作品を(勝手に)近所の森林に設置し始めたことをきっかけに「森づくり」を行う(森林利用は無償)
- ③ワーク・イン・レジデンス
- ▶ 空き家紹介
- ▶ 神山が求める働き手や起業家を、家・土地付きで公募
- ▶ 移住者数: 2008年10月8名 → 2010年1月39名(累積)
- ▶ 地域(神山)にとって有益な人を選ぶ(そうでない人を排除する)

